

4 用語の定義と概念

はじめに

この項では、本ガイドラインのケア、治療を考えるうえで、整理しておくべき用語の定義について本文から抜粋してまとめた。特に、国際的に定義が定まっていないものや、学会により異なる定義を採用しているものについて取り上げた。定義や日本語訳が概ね定まっているものは取り上げていないため、本文中のすべての用語の定義を抜粋したわけではない。用語の定義は MeSH (medical subject headings)、関連学会の定義に準じ、本ガイドライン委員会ですべて再検討した。

ここに挙げた用語（日本語訳）や定義は、今後、日本緩和医療学会のみならず関連団体を含めて、用語の統一を行っていく過程で変更される可能性がある。

呼吸困難

呼吸時の不快な感覚。dyspnea

呼吸不全

呼吸機能障害のため動脈血ガス（特に O_2 と CO_2 ）が異常値を示し、そのために正常な機能を営むことができない状態。急性呼吸不全と慢性呼吸不全がある。respiratory insufficiency

悪性胸水

胸膜播種や腫瘍の浸潤など、がん、悪性腫瘍が原因となって胸腔内に液体が貯留した状態。
malignant pleural effusion

胸膜癒着術

胸腔に薬剤などを注入し、胸水や気胸の増悪を防ぐために壁側胸膜と臓側胸膜を癒着させること。
pleurodesis

咳嗽

短い吸気に引き続いて、声門が部分的に閉鎖し、胸腔内圧が上昇して、強制的な呼気とともに気道内容が押し出される状態をさす。cough

死前喘鳴（しぜんぜんめい）

死期が迫った患者において聞かれる、呼吸に伴う不快な音。呼吸とともに意図しない発音がみられる呻吟（しんげん）とは異なる。death rattle

精神療法

精神科医、心療内科医、臨床心理士といった精神保健の専門家が、患者との相互交流を通して精神・心理的問題に対する支援を行う専門的治療。がん患者の場合、精神疾患や情緒障害に対してではなく、精神的苦痛の緩和を目的とする。psychotherapy

リラクゼーション

緊張や不安、疼痛を軽減させるための方法。
relaxation therapy

[注]本ガイドラインでは、National Cancer Institute（米国）の定義を引用した。

看護ケア

健康の保持増進、回復に関するケアを意味する。
nursing care

[注]本ガイドラインでは、非薬物療法のうち看護師が関わる可能性がある介入を看護ケアとした。

補完代替医療

現段階では通常医療の一部であると考えられていないさまざまな医学，健康管理システム，施術，生成物質などの一群。complementary and alternative medicine (CAM)

〔注〕本ガイドラインでは，NCCAM (National Center for Complementary and Alternative Medicine：米国の国立補完代替医療センター) の定義を翻訳引用した。

呼吸リハビリテーション

呼吸器の病気によって生じた障害をもつ患者に対して，可能な限り機能を回復，あるいは維持させ，これにより患者自身が自立できるように継続的に支援していくための医療。pulmonary rehabilitation

〔注〕本ガイドラインでは，日本呼吸管理学会/日本呼吸器学会，「呼吸リハビリテーションに関するステートメント」の定義を引用した。

呼吸理学療法

呼吸障害に対する理学療法の呼称および略称さらには総称であり，呼吸障害の予防と治療のために適用される理学療法的手段。respiratory physiotherapy

〔注〕肺理学療法あるいは胸部理学療法は欧米での chest physiotherapy に相当する用語である。Chest physiotherapy は通常，伝統的な気道クリアランス法，特に体位ドレナージとそれに付随する排痰手技（特に軽打，振動）に代表される気道管理に関する理学療法手技のみを意味するものである。呼吸理学療法と，肺あるいは胸部理学療法は，しばしば混同されているが明確な相違がある。

オピオイド

麻薬性鎮痛薬やその関連合成鎮痛薬などのアルカロイドおよびモルヒネ様活性を有する内因性または合成ペプチド類の総称。opioid

〔注〕本ガイドラインでは，日本緩和医療学会「緩和医療ガイドライン作成委員会がん疼痛ガイドライン作業部会」の定義を引用した。

(新城拓也)